



最後の大宮司 没後四百三十年

宗像

氏貞公墓前祭を斎行

第八十代最後の大宮司、宗像氏貞公の墓前祭が、命日である三月四日、当社より神職三名が出向し神式にて執り行われ、菩提寺である承福寺の埜村住職、隣船寺住職、この地に住み代々墓守を続けてこられた占部家の方々、地元今門地区の皆様、当社葦津宮司が参列し、公の遺徳を偲んだ。

氏貞公は十六世紀後半の戦国時代末期を、大友氏、龍造寺氏、島津氏、毛利氏等の大勢力が北部九州を支配下に置こうと鎬を削る中、懸命に神郡宗像を守り抜いた英傑である。又、乱世にあつて辺津宮や中津宮の本殿再建をはじめ、神郡宗像内の荒廃した社寺の復興にも努められた。しかし、天正十四年病の為、



平成ノ大造営

時満ちて道ひらく

余滴

今夏の世界遺産登録を目指していた「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」のユネスコへの推薦が一旦、取り下げられる事となった。主な理由として、豊臣・徳川時代の禁教に焦点を当てた内容に見直すよう求められたという。相も変わらず、ユネスコないし国連、そして世界は、欧米の価値観を基に構築されている▼我が国における切支丹史は、宣教師ザビエルの布教に始まり、長崎を中心に教会領土を拡大、その領内では行政権・司法権も奪われ、非信徒の多くの日本人が奴隷として世界各地に売り払われた。そして布教地の神社仏閣は、悉く焼き払われた。その実情を知った豊臣秀吉は、宣教師達に邦人の返還を命じ、伴天連追放令を発令する。神道思想家・葦津珍彦大人は、その状況を純然たる外国植民地が日本島内にできたのは、前にも後にもこの時代のみであるといふ。この知識なくして、切支丹迫害史のみが語られるのは、歴史認識の片寄りと言ふ▼昭和三十年代、世界各国を廻った出光佐三店主は、外国の物質文明の行き詰まりを肌で感じ、「物質尊重から人間尊重へと語った。そして日本人が古くから持っている無我無私・互譲互助・信頼融和の精神を世界全体へ普及することが世界平和への道であり、日本人の使命であると結論する▼日本精神の根幹を成す神道。古来、日本人のいのちの空間を繋ぐ「沖ノ島」。日本精神の発信拠点として、来年の世界遺産登録を目指す。(床)

神具・装束・授与品



装束店
〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980
授与品店
〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組
〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567



四十二歳の若さでこの世を去られた。氏貞公は自らの死を三年間秘すよう遺命された為、亡骸は占部右工門が竹皮籠に納め深夜密かに上八、村「乙尾の丘上・老松の下」に埋葬された。
この墓前祭は昭和六十年より当社と承福寺が隔年で奉仕している。郷土を守り抜いた中興の祖・氏貞公御一代の生涯に思いを馳せ、我々も更なる神徳宣揚に心尽くす誓いを新たにしたい。

宗像大社菊花会 新年総会 菊作り講習会を開催

二月十九日、宗像大社菊花会の新年総会並びに菊作り講習会が宗像大社の清明殿にて、吉田会長以下会員約七十五名が出席し盛大に開催された。



新年総会では、第四十六回西日本菊花大会並びに第四十二回九州菊花連盟九州大会の日程について議論がなされ、二十八年度の日程が決定された。

総会終了後、愛媛県松山市より丹生谷宗久先生をお招きし、菊作り講習会を開催した。菊作りを始めて三十年程経つ丹生谷先生の話は聞き手に分り易く尚且つ笑いも交えながらの講義であった。先生の知識を少しでも学ぼうとビデオやメモをとる会員、質疑応答では積極的に手を挙げ自分の菊作りとの違いを確かめる会員など講義予定時間を大幅に越えたが、熱心に受講する姿が見られた。

年々菊作りをする方々が減少傾向にあるが、現会員の皆様と共に菊作りの

品点数増加を目標に掲げ、総会並びに講習会は閉会した。



人事異動 (神職)

四月一日付で人事異動を左記の通り行いました。

宮司 葦津 敬之	神宝館 館長
権宮司 葦津 幹之	社務本局長
権宜 渡邊 秀丸	庶務部 部長(兼)
杉山 安彦	経理部 部長
権宜 長友 貞治	海洋分局長(兼)
佐々木大治	祭儀部 部長
中原 裕生	文化財管理事務局長(兼)
神島 亘	祭儀部 儀式課課長
御床 直之	祭儀部 儀式課課長
大塚 宗延	祭儀部 儀式課課長
壹岐 貴寿	祭儀部 儀式課課長
吉田 久賀	祭儀部 儀式課主任
松林 拓	造営室兼秘書室代理
宗像 崇史	海洋分局主任
吉武 誠礼	経理部 用度課主任
鈴木 祥裕	庶務部 広報課主任
日高 庸介	祭儀部 賽務課主任
船越 裕介	祭儀部 賽務課員
黒神 直豊	庶務部 庶務課員

主基地方風俗舞保存会 研修会並びに役員会開催

昭和主基齋田の資料を閲覧

三月八日主基地方風俗舞保存会
研修会・役員会が開催された。

研修会では筑紫野市の福岡共同
公文書館に出向し、特別企画展示
「昭和の主基齋田く福岡県の記録か
ら」を見学。

現在保存会が継承伝習している
主基地方風俗舞は、昭和三年の昭和
天皇御即位の大嘗祭のものであり、
当時の主基地方は福岡県早良郡脇
山村(現在の福岡市早良区脇山)に
定められた。脇山村
の氏神は当大社の分
祀社である横山神社
であった為、京都御所
へ新穀を献上する当
日、関係者一同当大
社に御礼詣を行って
いる。このような関
係から当大社はこの
貴重な舞楽を後世に
残そうと宮内庁に嘆



願書を提出し、特別の思し召しを
以って御下賜された。よって昭和の
主基齋田と主基地方風俗舞は密接
な繋がりがあり、今回の研修を行
う運びとなった。
公文書館では昭和天皇の即位の
礼に際し、大嘗祭に供える新米を作
るために選ばれた福岡県早良郡脇
山村(当時)の「主基齋田(すきさい
でん)」について、公文書や写真資料
等の収蔵資料が展示されており、
当時の福岡県民の緊張と
熱気が伝わってきた。
その後の役員会では、花
田会長以下役員、各支部
長参加の下、四月一日の
春季大祭の奉仕・温習の
日程や今後の取り組みにつ
いて話し合わせ、福岡県
指定無形文化財認定に向
け会員一同、さらなる活
動の強化を確認した。

地元総代・宗像大社協力会研修旅行 く神武建国を思い、日向三代を巡るく

地元総代・宗像大社協力会の研修
旅行が二月二十八、二十九日の日程
で実施され、総代八名、引率神職二
名が参加し、宮崎県へと向かった。

本研修旅行は皇紀二六七六年神
武建国を思う旅く日向三代を巡るく
をテーマに、神武東征の道筋を辿る
旅であった。初日に天孫降臨の地で
ある霧島神宮を参拝。その後、青島
神社に参拝し、長友宮司様よりご挨拶
賜り、境内
の案内、青島
の土地柄、由
緒について説
明を頂戴し、
一日目の研修
を終了。
二日目は神
武東征出発の
地と言われる
宮崎神宮を正
式参拝し、杉
田宮司様よ



り、境内の案内、由緒、などの説明
を頂戴する。その後、平和台公園に
て、「八紘一字」の塔を見学し、平和
への思いを馳せる。昼食後、帰路に
着き研修旅行を無事終了する。
今回、神武東征の道を辿ることに
よって、建国当時の思い、八紘一字に
込められた思いを、参加者が各自感
じた研修旅行になったと思う。私た
ちも、その思いを胸に、日々、神明奉
仕にあたっていきたいと思

福岡県神道青年会

「東日本大震災早期復興祈願祭 並びに復興支援事業」

福岡県神道青年会(四十

歳以下の県内神職)は、三月

十三日、北九州市「若松市

民会館」にて東日本大震災

復興祈願事業を行った。当

社からも神職四名、巫女二

名が出向した。

福岡県神道青年会は、震

災発生直後より現地での支

援活動ほか慰霊祭・復興祈

願祭を行ってきた。発生よ

り五年が経ったが、現地から

聞こえてくる声は

「震災を忘れないで

欲しい」というもの

が多く、今年も復

興祈願祭を斎行す

ると共に併せて交

声曲「海道東征」を

奉納することとなっ

た。

「海道東征」は、

北原白秋 作詞、信

時潔(「海行かば」

作曲)作曲により昭

和十五年に、皇紀

二六〇〇年奉祝の

為に書かれた神武

東征を題材にした

当社巫女による浦安舞奉奏



ものである。この曲を通し震災直後世界が賞賛した日本人の精神を振り起こすと共に、被災地へ思いを寄せ、大震災の記憶を風化させることなく後世に伝えていく誓いの場とすべく、九州歯科大学合唱団奉仕のもと「海道東征」奉納となった。当日、会場には三百名余が来場し、また震災復興事業で数年前より交流のあるJ A福島中央会関係者も遠路参列頂いた。事業の終わりには、J A福島中央会より奉納いただき御神前にもお供えした福島県産米を、家庭のお米と混ぜ食すことにより被災地へ思いを寄せていただきたいということから来場者へ頒布した。東日本大震災発



「海道東征」合唱

生より五年が経過したが、原発問題、未だに避難生活を余儀なくされる人々、復興が遅々として進まない地域など、課題は山積している。現状、復興に我々が直接関り、出来ることは少ないかもしれないが、思いを寄せることが震災を忘れず、復興の下支えになるのではないかと思う。



お供えされた福島県産米



福岡県護国神社・福岡県神道青年会 大東亜戦争沖繩戦戦没者慰霊祭 〜当社から二名が出向奉仕〜

去る二月二十四日、沖縄県「摩文仁の丘」福岡県慰霊塔において福岡県護国神社・田村豊彦宮司を齋主に同神社職員、福岡県神道青年会々員奉仕の下、厳かに慰霊祭が斎行され、福岡より御遺族二十七名が参列された。

摩文仁の丘は、国内唯一の陸戦となった沖縄において最後の激戦がおこなわれた地であり、福岡県慰霊塔には県民四、〇一五柱の御霊が御鎮まりになられている。戦後七十年の節目に御霊和めと感謝の誠を捧げるためこの度の慰霊祭となった。

田村宮司が祭典後の挨拶で戦争未亡人が詠まれた歌を紹介された。

「かくばかり
醜き国に なりたるか
ささげし人の
ただに押しまる」

この歌に共感する人も多いためではないだろうか。多くの日本人が命を落とした上に現代があるという事を我々は深く心に刻まなければならない。

液化石油ガス大型タンカー 「アストモスヴィーナス」に 宗像大神を奉斎

去る三月八日、三菱重工 業長崎造船所(長崎市)に当社神職二名が出向、液化石油ガス(LPG)大型タンカー「アストモス ヴィーナス」の宗像大神鎮座祭並びに鎮座奉祝祭が試験運航を前に執り行われ、宗像大神が奉斎された。

も当大社に同船の宗像大神奉斎の祭典依頼があり、当日は操舵室にて午前十一時より鎮座祭、午後一時半より鎮座奉祝祭が出光タンカー(株)取締役・橋本船長以下関係者・乗組員参列のものと滞りなく斎行された。

り同船の御加護と国威発揚・社業益々の発展を祈念する祝詞が奏上された後、大麻・切麻にて巨大な同船を祓い清め祭典は終了した。これから幾度となく繰り返される「アストモスヴィーナス」の航海の安全と関係者皆様方が益々御活躍される事を心よりお祈り申し上げます。

アストモスエネルギー(株)の所有で一昨年就航した「アストモス アース(地球)」に続き「ヴィーナス(金星)」の名前が付けられた同船の運航は出光タンカー(株)が中心となり主に中東へ片道二十余日をかけて航海し五日程をかけてLPGを積み込んだ後、帰路につくという。

出光のタンカーには宗像大神が奉斎されており、その経緯で今回



【船概要について】
①要目:全長 230m、幅 36.6m、深さ(船底から甲板までの高さ)21.65m
②船種:LPG 運搬船(液化石油ガス運搬船)
③タンク容積:約 83,000 m³ ④総トン数:約 48,300トン

時満ちて道ひらく

造営日記 25

下水道工事

現在、辺津宮の汚水は浄化槽にて処理しているが、近年境内付近に下水管が整備されたのを機に計画を進めていた下水道工事を3月に行なった。これにて浄化槽が不要になる為、新年度も引き続き下水関連工事として浄化槽解体が施工される。



松尾神社祭齋行

三月十九日、新酒醸造を無事に終えたことを奉告し、感謝の誠を捧げる恒例の酒造報賽祭が、辺津宮本殿にて酒造関係者参列のもと齋行された。

生憎の雨天につき本殿祭に併せての祭典となったが、大前には酒造されたばかりの
祈念する祝詞が奏上され、宗像大神への神恩を感謝し各々玉申を奉奠した。

の新酒が供えられ、当大社の御神酒を醸造している勝屋酒造



御造営奉賛者御芳名

(平成28年2月)(順不同・敬称略)

五〇、〇〇〇円	ときがわ町 野口 本和	三、〇〇〇円	入間市 井出 恵資
一五、〇〇〇円	茨木市 占部 博	徳島市 山口 幸子	日野市 高橋 理
一〇、〇〇〇円	老岐市 (株)イチャヤマ	南足柄市 加藤 晶代	宗像市 柴村八重子
	市山 治江	二、〇〇〇円	阿久比町 横井 光久
	北九州市 吉本 幸一	朝倉市 矢野 宙之	糸島市 風呂ノ上陽子
	静岡市 松岡林太郎	大阪市 村瀬 君夫	京都市 米田 昌裕
五〇、〇〇〇円	福岡市 内田 雄之	熊取町 中村 初子	佐用町 岡本 良子
	大分市 磯貝真由美	中野区 新家 敏郎	北九州市 東 光和
	可児市 永島かおり	中野区 新家富美子	福岡市 酒井 広
	福岡市 真由美	福岡市 井上 慎礼	福岡市 島津 聖昌
	福岡市 林 孝昌	福岡市 柴田 勝久	福岡市 吉田 光佑
	福岡市 寛子	宗像市 小林 博司	福岡市 藤井 愛子
	横濱市 中内美千代	飯塚市 石田 大介	横濱市 服部 弓子

福岡県日本語交流プログラム

参加者が宗像大社を参拝

(宗像市子ども育成課グローバル人材育成係)

海外から優秀な日本語学習者を福岡県に招へいし、大学・企業訪問、ホームステイ等を通じて、『親福岡派』ネットワークを構築・活用することにより、将来の高度人材である留学生の獲得及び海外における福岡県の認知

度向上を図ることを目的として、福岡県が昨年度より実施している事業「福岡県日本語交流プログラム」に、オーストラリア、アメリカ、フィリピンなど十一カ国から参加した十一人の日本語学習者が、三月一日、宗像の歴史や文化を学ぶ

トリア、中国、インド、インドネシア、マレーシア、フィリピン、韓国、台湾、タイ、米国、ベトナム(十一人) 〇日本の自然を大切にしている文化を感じることができた



日本語交流プログラム

【参加者】オーストリア、中国、インド、インドネシア、マレーシア、フィリピン、韓国、台湾、タイ、米国、ベトナム(十一人) 〇日本の自然を大切にしている文化を感じることができた

【参加者の感想】 〇日本の自然を大切にしている文化を感じることができた 〇歴史ある神社を見ることができてよかった 今後のグローバル人材育成事業 【むなかたガイド】宗像市を訪問する外国人に、宗像の中学生、大学生などが宗像大社などを中心に宗像の観光地を外国語(英語や韓国語)を使いながら案内するプログラムを昨年度から実施しています。



むなかたガイド

ジェスチャーを使いながら、伝えることの楽しさを感じてもらうため、来年度も続けていきます。



日本語交流プログラム

儀式殿に桜を植樹

二月下旬に植え、根付くか心配でしたが、全国に先駆け福岡が三月十九日に開花宣言をした日、当社の桜も五輪ほど咲いておりました。

先日、儀式殿中庭に「子福櫻」を植樹しました。春と秋に咲く二季桜で、桜を愛でる楽しみが一つ増えます。

根付くか心配でしたが、全国に先駆け福岡が三月十九日に開花宣言をした日、当社の桜も五輪ほど咲いておりました。



第六五六回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



宗像市 日の里 秋吉 喜範
 コート脱ぎシャツ一枚の軽装で五時間の旅パンコクの街
 旅先でコートを脱ぎ街歩きする作者。二句以下へへで
 街あゆむ五時間の旅でパンコクに着きと三句切れに。

宗像市 日の里 大和美由紀
 穏やかな日和授かる新年に親子三人神社に参る
 穏やかな雰囲気のお正月。焦点がやや甘いので新年を
 元日に、神社の名も入れては。

宗像市 富田 山本 静子
 鈍色の曇天のそら一様のしずやかに雨五日の日暮れる
 雨の日の日暮を詠み、静かな一首。曇天と雨が重なる
 ので二句以下へ雲ひくき空しずやかに雨の正月五日ひ
 ぐれると。

北九州市 八幡西区 豊田 光子
 いのちかけなすべきことの何あらんかくも米寿を今ぞ迎ふる
 米寿のお誕生日おめでとうございます。歌は少し力を
 抜きこの後はいかに過ごさんともかくも今日まで生
 きて米寿迎ふるくらいに。

福津市 若木台 山崎 公俊
 奉納の連歌のなかに神御衣の文字あり天孫降臨おもふ
 神御衣を織っているとところに素戔嗚尊が皮を剥いだ馬
 を投げこみ、という天の岩戸の神話を連想した作者だ
 ろう。

宗像市 多禮 早川 祥三
 観光で急がるわれはガジュマルの気根に遊ぶガジュマルの歩み
 観光地での楽しい景。一首にガジュマルが二回出るが、
 結句はアヒルなどの方が良い。

宗像市 自由ヶ丘 萩原 勉
 お登記さんの愛と反戦の歌声に皆と一緒に立ちて手を振る
 加藤登記子の歌に酔う作者。お登記さんで読者に分か
 るかが気になるが、臨場感がある。

宮若市 宮田 本田エリナ
 陽は長く夕暮れは遅くなつてきて春時計が少し動き出す
 四句の春時計が素敵。へ日脚伸び日暮れが遅くなつてき
 て春時計の針うごきはじめる。

宗像市 池田 森 龍子
 春を待つ白菜ならむ四つ割りにして干す庭に芯を立ち上ぐ
 四つ割りにしたのに立ちあがる白菜の芯の生命力が印
 象的。命への畏怖が読み取れる。

北九州市 門司区 北野カズミ
 マンションとわが家の間は風の道帽子・傘飛び悲鳴飛ぶ道
 風の道になっていく道路は賑やかだ。結句は三句と道
 が重なるのでへときおり悲鳴に。

宗像市 田久 巻 桔梗
 妻の背に語りかけつつキッチンでえだ豆のから積むゆげまへ
 夫人への相聞歌。作者が夫人を手伝っているのか、晩
 酌中かが明確だと良いのだが。

◆ 選者詠

花ごとにはあはき翳おきさくら咲く祖母の命日しぐわつつのよつか
 生産者直売店であがなひし筍けぶかし猪の仔のごと

俳句作品集

宗像市 多禮 早川祥三
 親離子離いさぎよいつむじ

4月祭事暦

1・2日 春季大祭
 (1日目) 午前11時～一日祭
 (2日目) 午前11時～二日祭
 午前11時40分～
 高宮祭、第二宮・第三宮祭
 宗像護国神社 春季大祭
 交通安全講社祭(本殿)

15日 月次祭
 午前10時～
 高宮祭、第二宮・第三宮祭
 午前11時～総社祭

29日 昭和祭
 午前11時～

編集後記

日も伸び、気温も段々と暖かくなり、春の訪れを感じるようになってきました。過日、三月十七日、当地、田島では社日祭という祭事がありました。社日とは春分と秋分に最も近いつちのえの日を指し、春の社日は種まきの時期にあたり、農家では五穀豊穡を祈って祭事を行いこの日に種まきや土を耕し始めたりするそうです▼爽り豊かな秋になるよう、私も心新たに、日々勉強。新年度も社報編集・広報活動に精進してまいりますので、宜しくお願い申し上げます。(鈴)

発行所 宗像大社社務所・宗像会

住所 〒八一一一三五〇五 福岡県宗像市田島三三三
 電話 (0940)621-1111(代)
 発行人 葦津幹之
 編集人 大塚宗延・鈴木祥裕
 制作・印刷 セネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共 1,000円